「森の輪」morinowakko
～未来に託す贈りもの～

森の輪プロジェクト副代表　濱田　智子
（株式会社 森林環境リアライズ　相談役）

■「森の輪」とは？

赤ちゃんが生まれて初めて触れるおもちゃの素材は，何といっても木が一番でしょう！

やさしい木の温もりに触れながら，すくすくと健やかに育ってほしい。そんな願いを込めて，自治体から赤ちゃんへの誕生祝い品として贈られるドーナツ型の木のおもちゃ，それが「森の輪（もりのわっこ）」です（**写真1～4**）。

「森の輪」の材料には，赤ちゃんが生まれた市町村に生えていた木が使われます。町の木として指定されている樹種のほか，廃校になってしまった校庭の木，風倒などの被害にあった木，町有林の整備によって伐採された木など，それぞれの町が選ぶ樹種は様々で，これまでには，エゾヤマザクラやシラカンバ，ミズナラ，ヤチダモ，イタヤカエデ，カラマツなど10種類以上の樹種が使われています。その土地の気候風土の中で育ち，その町の歴史が年輪に刻み込まれた木を使うことによって，赤ちゃんに生まれ故郷への愛着を育んでほしいという願いが込められています。

また，「森の輪」は，地域の人から届けられます。多くの自治体では，乳児検診の際などに保健師さんや役場の林務担当者から手渡されていますが，森の輪が赤ちゃんと親御さんに届くまでには，材料となる木を選ぶ人，伐採する人，乾燥した原木を加工する人，やすりをかけて磨く人，森の輪を入れる布袋を手作りする人，町を代表して手渡す人…など，地域の様々な人々が関わります。そうしたプロセスの中で，赤ちゃんの誕生をともに喜び，健やかな成長を願う人々の思いが重なっていきます。

写真1～4　森の輪

そして何よりも，「森の輪」は，赤ちゃんにぴったりのおもちゃなのです。直径8cmというサイズ（**図1**）は乳児の手でも握りやすく，両手で握った赤ちゃんは，ほぼ必ずと言っていいほど口元に持っていき，その感触を確かめるように舐めたり噛んだり…。このため，赤ちゃんが口に入れても安心して遊んでいただけるよう，日本食品分析センターで検査を行った上で贈呈されています。

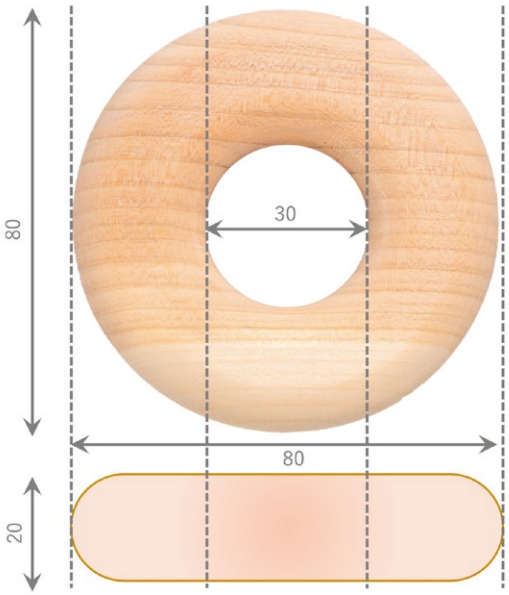

図1　「森の輪」の形状

さらに，「森の輪」を入れる布製の袋（**写真5**）には，お手入れの仕方や注意書きを記したタグを取り付け，袋の中には紙ヤスリを入れるなど，初めて木のおもちゃを取り扱う親御さんに，木の特性や木製品とのつきあい方を学んでいただけるように配慮しています。

写真5　「森の輪」贈呈パッケージ

シンプルなデザインに乳幼児に適した機能性と安全・安心を兼ね備えた「森の輪」を届けることで，親子のふれあいやコミュニケーションが活発になるお手伝いができれば嬉しいですし，末永く大切に使っていただけることを願っています。

■「森の輪」のあゆみ

こうした「森の輪」を普及する活動は，2019年に「森の輪プロジェクト」として始まりました。私は，同年4月に道庁水産林務部から十勝総合振興局森林室に転勤し，帯広大谷短期大学で幼児保育を学ぶ学生さんにものづくりを指導されていた馬場拓也さん（現：北海道教育大学旭川校講師，「森の輪」プロジェクト代表）に出会い，乳児の歯固めとして使えるドーナツ型の木製品を，赤ちゃんのファーストトイとして自治体から贈る活動を始めたいというアイディアを聞かされました。ほかにも，帯広の森・はぐくーむ施設長で木育マイスターとしても活躍されているの日月（たちもり）伸さんなど，活動の趣旨に賛同してもらえそうな人たちに話をされていると伺って，十勝管内の木育を推進する取り組みとして，振興局（森林室）が応援する形で一緒に進めましょうと話が弾みました。そして6月下旬，馬場さんや日月さんのほか，保育の専門家や看護師，木育担当の行政職員など8名ほどが帯広市内に集まり，十勝発の新たな取り組み「すくすく十勝　応援プロジェクト：森の輪」としてスタートしました。

当時は，十勝管内の池田町と上士幌町のほか夕張市において贈呈の準備が進められており，その年のうちに広尾町が参加して，最初の年は4市町による取り組みでした。その後は，「森の輪」の趣旨に賛同して取り組んでくださる自治体が年々増え続け，またプロジェクトメンバーにも新しい仲間が加わり，5年目となった今年（2023年3月現在）は，**表1**に示す22市町村（そのうち道外1市）に広がっています。

表1　参加自治体（千葉県香取市以外は北海道内）

香取市	池田町	浦幌町	音更町
夕張市	上川町	上士幌町	清水町
大樹町	当別町	中標津町	広尾町
幕別町	むかわ町	長万部町	安平町
湧別町	新篠津町	美瑛町	恵庭市
鶴居村	沼田町		

こうした「森の輪」に取り組んでくださる自治体の活動等については，毎年発行している冊子「森の輪物語」やホームページ，SNS（**図2**）などでも紹介しています。そして今年度も，来年度以降の新規事業としてご検討いただいている自治体さんからの問い合わせなどに応じているところです。

※公式ホームページ
URL　https://www.morinowakko.com

図2　QRコード
Homepage（左上），Instagram（右上）
Twitter（左下），Facebook（右下）

「森の輪」は，製品としての品質や意匠性だけでなく，地域の多様な人々が関わって届けられる点などが評価され，2020年には「ウッドデザイン賞」，2021年は「キッズデザイン賞」，そして2023年には，国際的なデザイン賞であるiFデザインアワードのプロダクト部門賞を受賞しました。北海道の十勝から始まった活動が5年の間に次々と素晴らしい賞をいただいたことは，ともに歩んできたプロジェクトの一員として誇らしくかつ励みに感じるとともに，今後の活動に向けても大きな期待が膨らみます。

■「森の輪」のこれから

シンプルな木製品に，あえて「森の」という冠名をつけたのは，地元の木から作られたおもちゃを通じて，その町の森林や身近な自然にも興味を持ってもらいたい，親子を森へと誘うパスポートのような存在になってもらえたら…という思いが，プロジェクトメンバーの中で共有されたからです。

北海道で生まれた木育は，「子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて，人と，木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むこと」とされていますが，「森の輪」は，まさにそのような木育の理念を体現するものになっていると思います。ちなみに，2004年に北海道で木育が誕生するきっかけとなった木育推進検討プロジェクトチームには私も参画しており，当時，検討会議での議論を重ねるうちに，その場に集まった委員の中には，森と人との関係性をより良いものにしていきたいという共通の思いがあることを実感しました（木育誕生の背景や経緯については，「森の輪物語2020」に寄稿しましたので，御一読いただければ幸いです）。

「森の輪」プロジェクトでは，地域における森と人，人と人とをつなぐ役割なども小さなドーナツ型のおもちゃに託して，未来への一歩を踏み出そうとする赤ちゃんとその親御さんに届けています。とても夢のある活動だと思いませんか？　プロジェクト代表の馬場さんは，活動の目的は，「未来への種を撒き続けること」とおっしゃいます。少しずつ種を撒き続けて，今年で5年目となりました。これからも種を撒き続けながら，種から芽生えた生命を育んでいくような活動にも取り組んでいくことができたら…と考えています。どのような芽生えがあり，どのように育てていったらいいのか？を模索しながら，ひとつひとつ歩みを進めていくことになると思いますが，本稿を御覧いただいた皆様には，これからも「森の輪」の活動を温かく見守っていただければ有り難いと思います。